

「彩りの森づくり」植樹

美作国建国から1300年の間に大きくかわった古里の地を、未来に伝承しようと、「彩りの森づくり」の植樹が行われました。

この植樹は、平成25年11月16日〜平成26年3月16日の期間中、10回に分けて行われました。

植樹が行われたのは、奥津湖内の「浮島」です。苦田ダム建設により移転された方の「ふるさと」は湖面に眠っていますが、唯一「ふるさと」の面影が残る「城峪城址」の浮島が選定されました。

3月16日には、美作国10市町村から代表の方が出席し、各市町村の木も植樹されました。



10年後には、苗木も成長し、彩り豊かな浮島が誕生し、憩いの場となっていることでしょう！



鏡野町は、山崎町長と小椋議長が、カシとオオヤマサクラを植樹しました。



参加者はそれぞれの想いを胸に、桜や、ツツジ、モミジの苗木を丁寧に植えていきました。

さあ踏みだそう

1400年 新たな美作国



美作国キャラクター「かたみくん」

美作地域の10市町が連携し、美作国の1300年を振り返るとともに、次の100年へその魅力を伝える取組みを行ってきました。
1300年記念事業は終了しましたが、1400年に向けての新たなスタートとして、ふるさとへの誇りと自信、郷土の素晴らしさを、各地域の次代を担う子ども達へ、残していきたいものです。

そして、プレ事業も含めて2年間にわたり行われてきた「美作国建国1300年記念事業」も、3月21日、勝山文化センターで、閉幕セレモニーが開催され、フィナーレを迎えました。

